



発行所 紀南教会  
編集委員会  
和歌山県田辺市  
下屋敷町80  
TEL/FAX  
0739-25-1191

緑の季節になりました。新年度が始まり二ヶ月、新しい生活に慣れましたでしょうか。楽しい事、嬉しい事。心配、不安な事等が錯綜している季でしょうか。でも共に祈り、寄り添い、支え合えば、穏やかな力が出てくるような気がします。厳しい事情の夏が来ますが、皆様日々お健やかでありますよう、願っています。

編集委員一同

# 日々の御言葉

私は昨年、左股関節の手術の為、四ヶ月入院生活をしました。その間、家族には心配と不便をかけたが、健康も支えられ助け合いながら生活できた様で感謝している。入院中は、兄弟姉妹の

祈りとタイミング良く届く励ましのメールに、大いに励まされた。今はまだ杖歩行だが、痛みも軽減され日常生活も少しずつ楽になっている。そもそも、この入院に際しても不思議な神さ

が存在する。それら全てが不思議な、絶妙なバランスで生存しており、互いに深く、複雑に結びあっている。自然の中で、互いに与え

が過去の、現在、未来、そして永遠を思ふ心を与えられている。創世記には、神は人間を神のかたちで創造した、と

多くの人が人生を肯定できないでいる。言い換えれば、人生に意味を見出せないで苦しんでいる、と言える。何のために生きているのか、生まれてこなかった方がよかった、と。ある調査で、人生の意味について、最も否定的な回答をしたのは娯楽歓楽街に出入りしている人々であった。このことは、空虚感のために娯楽に逃避していることを表している。こういった悩みは人間だけの悩みである。サルや柿の木が何のために生きていますのかなどと悩まない。地球には無数の動植物

が果たされ、それぞれの役割を果たしている。全てのものには存在意義がある。そこには天地万物の創造者の計り知れない英知が込められている。人間もその中の一員であると共に、人間だ

た。彼は、初対面の感じが良く、診断も正確で、治療にも熱心。アトピーを持病に持ち、患者の気持ちも分かる医者であろうと好感が持て、私は継続して見て頂くことに決めた。今回、主治医である彼はそのまま執刀医として手術にいでん

めていた。それゆえ、転院の手配もスムーズに行われた。全てが神様の御手の中で進められたと感じており、心から神様に感謝している。年末年始の和歌山への里帰りがあるかと心配でしたが、経過も良く帰省することができた。父母は、不便がないようにと家のトイレを洋式に変えてくれ、ベッドも用意してくれ、帰りを待っていてくれた。何事もなく、両親の温かい、思いやりと優しさの中で、新年を迎えさせてもらった。思えば二十四年前、紀南キリスト教会で結婚式をさせて頂き、神の家族に加

## 人生を肯定する

紀南教会牧師 上山 耕司

それと同じように、教会も一つの部分(一人)

「思い煩い」ということを考えてみた。

「思い煩い」といっても、いろんなレベルがある。「うーん。何を書こうかな。」と考えるこの瓦版の原稿も、人によっては「思い煩い」の種になるかもしれない。深刻なレベルでは、病

「一口下手」と言えば聞こえはいいが、自分にこだわ

御言葉によって、こんな自分でも生かされ用いられていることを思い返す時、思い煩いからの解放が(二時的だとしても)ある。



## とんぷく?

私の分身のようなものだ。些細なことで一喜一憂し、すぐ思い煩う。新聞やニュースで世の中の悪い流れを知り、思い煩う。しかも、そのために寝れなくな



毎号、上山牧師のほか二名の方に寄稿いただき、信仰人としての時々々の思いを届けてもらっています。次号三十五号の発行は十一月二十五日の予定です。都合により八月はお休みさせていただきます。